名理会だより

第１２１号

https://meirikai.wp.tcp-ip.or.jp

令和８年１１月２０日（金）　名古屋市理科教育研究会　　事務局　広報係

驚きと発見の連続「青少年のための科学の祭典」

１０ 月３日（土）、４日（日）、FUJIなごや科学館で「青少年のための科学の祭典」が開催されました。子どもたちは目を輝かせながら、科学の魅力を体験できる実験や工作など、身近な科学の不思議に挑戦しました。

今年度も、私たち名理会の各専門部（物理・化学・生物・地学）から趣向を凝らしたブースが展開されました。親子で楽しめる内容に参加者からは笑顔があふれ、名理会のブースも含め大盛り上がりの科学の祭典となりました。



物理専門部「傘袋ロケットをつくろう」

おもりやはねをつけた傘袋に空気を入れ、指で押し込むことで飛ばす、という体験内容でした。

体験した子どもたちは、「どうやったら勢いよく飛ぶか」「狙った場所に飛ばすにはどうしたらよいか」などを熱心に考えながら、楽しそうに何度も飛ばす様子が見られました。





化学専門部「身近なものでハンカチを染めよう」

参加者は輪ゴムを使ってハンカチを縛り、「どんな模様になるかな」と期待しながら、タマネギの皮を煮出した染液で染色しました。

完成したハンカチを広げると、一人一人違った模様が現れ、「やった！きれいに染まった！」「お花みたい！」と歓声が上がりました。身近な材料から美しい模様が生まれる驚きと、科学の楽しさを感じる活動となりました。

生物専門部「回転する実やたねのふしぎ」

植物の種子が風を利用して、回転したり、滑空したりしながら遠くへ広がる仕組みを紙の模型を作って体験するという内容でした。当日は、絶え間なく参加者が訪れ、子どもだけでなく大人も体験をしました。

体験した子どもたちは、「種の種類によって回転の仕方が違っていて、おもしろいね」「横からふうっと息を吹きかけると、勢いよく飛んで行くね」など、身近な自然への興味・関心が高まった感想をつぶやいていました。





地学専門部「化石のレプリカ作り」

「これはどんな生き物だったんだろう」と、子どもたちは目を輝かせながら「化石のレプリカ作り」に取り組みました。お湯で柔らかくなる色鮮やかなプラスチック粘土を練り上げ、アンモナイト・三葉虫・サメの牙の型へ、思い思いの２色の粘土を重ね合わせて自分だけの化石を創り出す体験は大盛況でした。

魅せられた子が何度も列に並び直すほどでした。手元に生まれる小さな大昔の化石のレプリカを通して、はるか昔の生き物と時代の様子に思いを馳せる科学の体験となりました。

専門部の取り組み（生物・地学）

授業づくりに役立つ教材研究や実験の紹介、最新の教育動向や科学的知見を深める講話、さらには会員同士が語り合い、つながりを広げる交流の機会など、現場のニーズに寄り添った研修が数多く企画されました。専門部ならではの視点に基づいた学びは、日々の授業改善につながるだけでなく、会員相互の成長と励まし合いの場として大きな役割を果たしています。今回は、生物・地学専門部の活動を紹介します。

生物　動植物野外観察会＆各種研修会



8月 21 日（金）に竹島水族館のバックヤードツアーを行いました。生物領域にとって動植物観察会は、普段なかなか観察できない動植物が見られる場であるだけでなく、生物の生態や飼育方法などについて学ぶ場であったり、会員同士の親睦を深めたりできる貴重な場でもあります。できるだけ多くの会員が参加できるように企画し、今年度は会員の家族を含めて 34 名が参加しました。様々な水生生物を観察し、飼育方法や展示方法の工夫についての説明を聞くことができた有意義な会となりました。

10 月 27 日（火）に授業づくり交流会・グループ研究報告会を行いました。今年度は、若手部員にグループ研究での取り組みの様子を伝えたいという思いから、授業づくり交流会とグループ研究報告会を同日に行いました。各グループにおける研究の進捗や課題について若手部員や指導者で共有し、今後について話し合いました。

生物専門部では、LINEのオープンチャットを活用して、各種研修会や活動の情報共有を行っています。今後も会員が参加しやすい会を目指していきます。

地学　天文研修会、巡検、授業づくり研修会

専門部（地学）では、「研修活動」と「実践研究の充実」を大きな柱として活動しています。



主な研修活動として、天文研修会、巡検、授業づくり研修会を企画しました。11月に行った天文研修会では、教師用・児童用タブレットで活用できる星空サイトやアプリを紹介するとともに、実際に操作しながら、その活用方法について一緒に考えました。実際の星空を観察しながら、星座について学ぶ貴重な時間となりました。



実践研究の充実としては、研究グループを組織し、若手教員を対象とした授業づくりや論文の書き方の相談会を進めています。昨年度まで理科に関する専門的な話題だけでなく、学校現場で生じるさまざまな課題について、参加者同士の対話を通して考えを深める場として行っていた「YCT」の精神を引き継ぎ、会場校を設定して少人数で行ったり、リモート等を使用したりして、人の絆を大切にしながら力量の向上に努めています。

今後も、地学領域の専門性に特化した研修活動を企画していくとともに、他の専門部の方々も参加しやすいものにし、共に学べる機会を考えていきたいと思います。

みんなの理科授業 ～いつもの授業にスパイスを～ 第三回

「名理会実践研究部会（小学校部会）スタート！
～理科を語り合える仲間づくりをめざして～」

今年度、「明日の理科が楽しみになる！」を合言葉に、若手教員を主な対象とした実践研究部会（小学校部会）をスタートしました。5月から月1回のペースで開催し、授業実践や教材研究、日頃の悩みについて活発な交流を行っています。

この会の特徴は、先輩の先生から一方的に話を聞くのではなく、参加者同士が気軽に語り合いながら学び合えることです。全小理愛知大会で提案された授業や教材を実際に体験しながら、その教材のよさや授業展開について語り合ったり、最新の教育動向について学習したりするなど、毎回充実した内容となっています。

また、会の後半には日常の授業や評価に関する悩みを交流する時間を設けています。「理科を相談できる仲間がほしい」「授業づくりについて語り合いたい」という参加者の声も聞かれ、この会が学びと交流の場として機能していることを実感しています。

①	5/28	この会についてのオリエンテーション 学年等に分かれて交流
②	6/24	ムラサキツユクサの気孔の観察 学年等に分かれて交流
③	7/23	火山噴火モデル装置による実験 コインケースを用いた振り子実験 理科室の安全配置・参加者の交流
④	8/27	プラスチック装置・煙発生装置による実験 巨大アクリルパネルを使った調べ学習 参加者の交流
⑤	9/24	色水にした食塩水の層を作る実験 文科省理科WGとりまとめ案学習会 参加者の交流
⑥	10/22	化石カフェ

【これまでの主な活動内容】

毎回和やかな雰囲気の中で充実した時間を過ごしていますが、一方で、若手教員の参加がまだ多いとは言えず、今後さらに仲間の輪を広げていくことが課題です。子どもにとって実験は、一人で行うより仲間と行った方が楽しいものです。研究会も同じです。教材を触りながら、「おおっ！」と驚いたり、「なるほど！」とうなずいたりしながら学ぶ時間は、やはり理科ならではの魅力があります。堅苦しいものではなく、理科授業に不安を抱く先生方や、授業づくりに悩む先生方こそ気軽に参加できる会にしていきたいと考えています。

これからも理科の楽しさや奥深さを共有しながら、仲間とともに学び続けられる温かな会を目指して活動を続けてまいります。多くの先生方のご参加をお待ちしています。



【交流の様子（第１回）】



【必見！松栄小の背面掲示】

文：岡﨑 功典（浮野小）